vinetur

猛暑に見舞われたブルゴーニュの収穫減、オスピス・ド・ボーヌのワインオークションは1,440万ユーロ

プレジデンシャル樽は77万ユーロで落札。追加寄付により、ArslaとDebra Franceへの支援額は過去最高の100万ユーロに達した

2026年11月18日（水）



第166回オスピス・ド・ボーヌのワインオークションが11月15日、ブルゴーニュ地方のボーヌで開催され、総額1,440万ユーロを記録した。2025年の1,880万ユーロを下回り、2022年に達した過去最高の2,890万ユーロからも大きく減少した。収穫量の縮小が今年の競売を左右した。

世界有数の歴史を持つ慈善ワインオークションの一つである同競売は、Sotheby’sが運営し、30カ国以上から買い手が参加した。主催者によると、2026年の生育期は長期にわたる高温と干ばつに見舞われ、ワインの生産量が減少した一方、個性が際立ち品質も高いワインが生まれたという。

注目ロットのPièce des Présidentsは、Anima Vinum Brazilの責任者Alaor Pereira Linoが77万ユーロで落札した。落札後、Faiveley家が病院職員に敬意を表して23万ユーロを追加寄付し、今年の支援先であるArslaとDebra Franceへの寄付総額は100万ユーロに達した。主催者によると、競売の慈善枠として過去最高額となった。

今年のチャリティー樽は、オークションにとって初の試みでもあった。Pièce des PrésidentsにClos de Vougeot Grand Cruが選ばれたのは今回が初めてで、コート・ド・ニュイを代表する著名なグラン・クリュの一つだ。

オスピス・ド・ボーヌの競売は1859年、医療費の調達と歴史ある病院の維持を目的に、同施設が所有するワインを競売にかけたことに始まる。この仕組みは現在も続いている。慈善ロットを除く売上は、オスピス・シヴィル・ド・ボーヌの病院運営に充てられる。

当局者によると、今年の収益は幅広いデジタル近代化計画に役立てられる。新たな電子カルテシステムの導入、検査・画像診断機器への投資に加え、患者や家族、一般の人々が情報を得やすくするための新たなデジタルサービスが計画されている。

今年は計450ロットが出品され、2025年の552ロットから減少した。内訳は赤ワイン34銘柄の樽348本、白ワイン18銘柄の樽84本と半樽2本、蒸留酒の樽12本と半樽3本で、これにプレジデンシャル・チャリティーロットが加わった。

出品数の減少は2026年ヴィンテージに関連している。ドメーヌによると、この年は異例に早い生育期となり、53日間に及ぶ極端な暑さに見舞われた。収穫は8月15日にプイィ・フュイッセ、ボーヌ、ムルソーで始まり、ドメーヌ・デ・オスピス・ド・ボーヌの歴史上、記録上最も早い開始となった。コート・ド・ニュイでは8月24日に収穫を終えた。

取引量の減少は競売総額を押し下げたものの、需要は堅調だった。主催者によると、競売には357人が入札登録し、Pièce des Présidentsを除く樽1本当たりの平均価格は6年連続で3万ユーロを上回った。2026年の平均価格は3万1,156ユーロだった。

赤ワインは白ワインを上回る実績となった。赤ワインの樽1本当たり平均価格は2025年比で5%上昇し、2万8,931ユーロとなった。一方、白ワインの平均価格は2025年の5万8,580ユーロから3万9,893ユーロに下落した。

複数のロットで新記録が生まれた。Mazis-ChambertinGrand CruのCuvée Madeleine Collignonは樽1本が18万5,000ユーロで落札された。Meursault Premier Cru Les GenevrièresのCuvée Philippe Le Bonは7万5,000ユーロ、Pommard Premier Cru Les EpenotsのCuvée Dom Gobletは4万ユーロだった。Sotheby’sとオスピスによると、ポマールの村名ワインとプルミエ・クリュは特に好評で、このカテゴリーの5銘柄のうち4銘柄が競売記録を更新した。

オスピス・シヴィル・ド・ボーヌの院長兼執行役会長Guillaume Kochは、出品可能なワインの量を踏まえると、今回の結果はおおむね予想どおりだったと述べた。市場は赤ワインの品質を評価する一方、上級白ワインの価格は、過去数年に高水準が続いた後に調整したという。

Kochはまた、今回の結果は、複数の課題と厳しい経済環境に直面した一年を経て得られたものだと述べた。希少疾患のある人々を支援する2団体、ArslaとDebra Franceに100万ユーロが寄せられた

ことを歓迎した。

Sotheby’s Franceの最高経営責任者Marie-Anne Ginouxは、今回の結果はオスピス・ド・ボーヌの競売が国際的な魅力を保ち続けていることを示したと述べた。Sotheby’sは一年を通じて世界各地の顧客にワインを紹介しており、その取り組みがボーヌでの入札に表れたという。

Sotheby’s Franceのワイン販売部門責任者Celian Ravel d’Estienneは、2026年ヴィンテージは赤、白ともに顕著な深みと個性を備えていると述べた。また、チャリティーロットにClos de Vougeot Grand Cruが選ばれたことで、今年の開催は格別な意義を持つものになったという。

オスピス・ド・ボーヌのワイン用ブドウ畑を統括するLudivine Griveauは、競売の結果は一様ではなかったものの、満足できるものだったと述べた。そのばらつきは、不確実さと回復力が際立ったヴィンテージを反映しているという。

競売の注目度は、フランス人女優Mélanie Douteyとコメディデュオのエリック・アンド・ラムジーが会場に姿を見せたことでも高まった。2組はボーヌでのイベントでチャリティーロットに注目を集める役割を担った。